

5月5日の例祭時の十市御県坐神社 檀原市十市町で



(住所) 檀原市十市町1番地
(主祭神) 豊受大神
(交通) 近鉄新ノ口駅から北東へ徒歩約20分

(拝観) 自由
(駐車場) 無し
(電話) 0744・225344 (辰己誠治・十市町自治会長)

十市御県坐神社は檀原市北部を東西に流れる寺川の北側に鎮座します。創建年代は不詳ですが、平安時代の「延喜式」が、平安時代の「延喜式」神名帳に大社と記載された古社です。主祭神の豊受大神は食物をつかさどる神様で、伊勢神宮の外宮の祭神として知られています。

十市御県坐神社 (檀原市)



古来、この地域は皇室の御料地。豊受大神は守

護神として、庶民が野菜の生育を祈願する対象であり、農業の神様として信仰されてきました。

古代の大和国では、天皇に献上する野菜を栽培する直轄地を「御県」と言いました。「延喜式」にある祈年祭の祝詞の

中に「六つの御県」(高市、葛木、十市、志貴、山辺、曾布)の記述があり、各郡の名と土地の霊を祭る御県神社が記録されています。

地元の人たちの当神社に対する崇敬の思いは非常に厚く、十市町自治会が中心になって神社を守っています。その象徴が

「だんじり」の存在。秋祭りに氏子によって引かれており、江戸時代中期に由来するそうです。だんじりは市内に10台あり、檀原市指定民俗文化財です。うち7台が十市町にあり、江戸から明治にかけて制作されました。10月の第2土・日曜の秋祭りに登場し、最後は当神社の境内に宮入ります。

は当神社の境内に宮入ります。

食物つかさどる農の神

(奈良まほろばソムリエの会会員 亀田幸英)